

早く子どもが欲しいのですが、痛くて性行為が最後までできません。人工授精を進められましたけど…。

佐賀 36～40歳



今まで、行為の経験がなく、37歳で結婚しました。晩婚でもあり、早く子どもを授かりたいという思いで、結婚後初めて経験しましたが、あまりの痛さに耐えきれず、一度も最後までできたことがありません。現在やっと、入るようになりましたが、動く痛みを感じ、耐えきれず途中でやめってしまうパターンが続き、2年が経とうとしています。婦人科にも受診し、身体には異常がなく、少し入口が狭いのと、自分で力んで、痛くしているのとでした。

半年以上たっても、痛みにより行為自体ができない状態を見て、本日先生から、人工授精の話をされました。周りで、自然妊娠に比べて、人工授精で生まれてきた子どもの

障害のリスクの高さを考えると、人工授精で妊娠できたとしても、生まれてきた子どもの状態によっては、人工授精を選択した自分を責めてしまいそうでなかなか進むことができません。

かといって、今後、痛みなく夫婦生活ができる見通しもせず、年齢的にも焦りを感じています。人工授精をしても、本当に子どもが欲しいのかわからなくなっています。周りで妊娠している友人を見ると羨ましくもあり、諦めきれない自分もいます。

行為の時の痛みは、耐えていたらなくなっていくのでしょうか。将来が見通せず、だれにも相談できないでいます。

など、さまざまあります。

特に女性は年齢を重ねるにつれて卵子の染色体異常が起これやすくなり、これが妊娠がしづらくなる、流産が起これやすくなる大きな要因になり、ダウン症候群など染色体異常を持つ子どもの出生率が高くなります。

人工授精を行うことは、それが適応するかどうか夫婦で検査をすることが必要です。婦人科で異常がなかったのですが、精液検査はお済みですか？

これから治療を始めるにあたっては、ご夫婦でよく話し合い、治療を行っても子どもが欲しいと思われたときに進んでいくのが良いと思います。

人工授精の適応や方法について、また子どもへのリスクについても、夫婦一緒に医師から話を聞かれるといいと思います。



性生活の痛みは、帯下の量が少ないと痛みを感じることがあり、市販の潤滑ゼリーを用いることで痛みが軽減されることもあります。膣の入り口が狭いとのことですので、挿入する前に、まずはご主人の指を1本挿入してもらい、潤ってきたら、指を2本へと増やすことにより慣れてくるかもしれません。

痛みに対しての怖さから身を硬くしてしまい、力を入れてしまっているのかもしれないですね。挿入し膣内で射精しないことには妊娠できませんが、まずは挿入を目的とせず、性生活を楽しむことが大切です。

さて、人工授精の件ですが、自然妊娠と比べて人工授精で生まれてきた子どもの障害のリスクが高くなるということはありません。

子どもが障害を持つ要因になるのは、母体が高年齢であること、妊娠中の母体が感染症を発症する、出産時の事故

人工授精

性生活

- 手をつないだり、くっついて寝たり、日頃の何気ないコミュニケーションが大事ですね！

園田 桃代 先生
園田桃代ARTクリニック
大阪府豊中市新千里東町1-5-3
千里朝日阪急ビル3F
☎06-6155-1511
—診療内容—
●一般不妊治療
●高度生殖補助医療
●卵管鏡下卵管形成術 (FT)
●不育症



前向きになるためには、正しい知識と普段のコミュニケーション

夫婦ともに治療に対して前向きであること。これは不妊治療においてとても大切なことです。

前向きになるためには正しい知識を得ることが大きな助けとなります。

また、夫婦間の温度差があるとうまくいかないことも多くなります。夫婦間のコミュニケーションは、性生活だけでなく普段の生活における小さな心掛け一つで良い方向に向かいます。

例えば、手をつなぐとか、何もなくてもくっついて寝るとか、お互いを思いやり、笑顔を忘れず、前向きに治療に取り組んで下さい。

41歳、2人目を希望するも

35
今の状況から今後どうしたらいいのか、
気持ちの整理がつかず悩んでいます。



41歳、二人目不妊です。主人は自然に授かることを希望しています。

私自身、年齢的にも厳しいことや、以前に病院で受けた検査ではAMH 0.8という低さで難しいことは承知しています。また、持病があり、身体にかかる負担などを考えると不妊治療には踏み込めずにいます。

主人とはしばらく、セックスストレスでしたが、ここ3年ほどようやく主人も協力してくれるようになりました。その間に、一度、生化学的妊娠を経験しています。

このまま、自然に授かるのを待つのか、家計に余裕はありませんが、不妊治療をしたいという気持ちもあります。どうしたらよいのか悩んでいます。

2人目不妊 ▶

不妊治療 ▶

東京 41~45歳



年齢的な要因や以前病院で行ったAMH検査の結果から考えると積極的に、または早めに妊娠へとトライした方がいいと思います。

持病があるとのことですが、持病に関しては、主治医から妊娠、出産することに対して確認や許可は得られていますか？

不妊治療にかかる体の負担も心配ですが、妊娠や出産にかかる体への負担の方が心配です。

妊娠することで病状に変化がなく、妊娠継続することにも耐えられ、日々を安定して送れる状態であるならば大丈夫だと思います。これに関しては、一度、主治医に確認をしてみましよう。

また、不妊治療をするにあたっては、ご主人の検査も必要になりますから、きちんと理解してもらうために、今一度、二人でよく話し合いましよう。

ご主人が妊娠や出産に対して理解して納得するために、

不妊治療専門施設で開かれている勉強会や説明会に二人で参加してみてください。そうすることで、妊娠し、出産には何が、どう起こって成立することか、それには女性の年齢がどう関係しているのかなどがわかるでしょう。客観的に理解ができれば、奥様が不妊治療へ挑戦してみたいという気持ちもわかってくれるのではないかと思います。また、ご夫婦の納得のいく治療もできるのではないでしようか。

まずは、不妊治療について話を聞いて、夫婦が共に理解して協力し合えるところから始めましよう。



- 不妊治療において年齢は避けられない壁。いかに良い結果につなげるかは夫婦の力です。

園田 桃代 先生
園田桃代ARTクリニック
大阪府豊中市新千里東町1-5-3
千里朝日阪急ビル3F
☎06-6155-1511
—診療内容—
●一般不妊治療
●高度生殖補助医療
●卵管鏡下卵管形成術（FT）
●不育症



健康な母体があつてこそ
赤ちゃんだということを：

不妊治療において年齢は避けようもない大きな壁になることは周知の事実です。

そのような状況の中で、いかによい結果につなげるかは夫婦二人でしっかりと治療に向き合えるかが大事になります。

二人目不妊であっても一人目のときは夫婦ともに身体の状態は変わっていると考えた方がいいです。

持病に関しては状況をしっかりと不妊治療医に伝えなければなりません。

健康な母体あつてこそ赤ちゃんだということを忘れないでください。